

生徒の**自発的、自治的**な 特別活動の実践

～生徒が**気づき、考え、実行する**青少年赤十字活動～

青少年赤十字実践推進校

邑楽町立邑楽中学校

邑楽町立邑楽中学校の概要



令和2年度	学級数	16学級
	生徒数	478人
	教職員数	40人

《学校教育目標》

自ら粘り強く**考える**生徒
規律を守る生徒

思いやりをもって**行動する**生徒
力いっぱい運動する生徒

《学校教育目標》

自ら粘り強く**考える**生徒 思いやりをもって**行動する**生徒
規律を守る生徒 力いっぱい運動する生徒

「気づき、考え、
実行する」
の態度目標を
意識した活動

本実践発表の内容

生徒が
自分たちで
「気づき、考え、
実行」できた
達成感

《生徒の課題》

指示待ちで、**主体性に欠ける**

実践の概要（JRC委員会の取組）

「気づき、考え、実行する」の態度目標

に沿った様々な活動

- 1. 令和元年度 1円玉募金を通じた国際協力**
- 2. 令和元年度 台風19号復興支援募金**
- 3. 令和2年度 新型コロナウイルス感染症に関わる人権侵害予防への取組**
- 4. その他の取組**
- 5. 成果と課題**

「気づき、考え、実行する」の態度目標に沿った活動（JRC委員会）

前期	後期	態度目標	活動内容
4月	10月	気づき	地域や社会の中で気になる課題を、生徒同士で出し合い、取り組む課題を絞る。
5月	11月	考え	課題に対して、呂樂中としてできること、取り組みたいことを家庭で考える。各自の考えを共有し、取組内容を具体的に考える。必要に応じて道具を準備する。
6月	12月	考え	
7月	1月	(考え) 実行する	学級内、学年内、全校、様々な集団を相手に、考えてきた活動に取り組む。
9月	2月	実行する	
10月	3月	ふりかえる	実行した活動をふりかえり、成果と課題をまとめ、今後につなげる。

※前期、後期で委員会所属生徒が入れ替わる

1. 令和元年度 1 円玉募金を通じた国際協力

気づき (1時間)

- ・ 地域や社会の中で気になる課題を、生徒同士で出し合う中で、ある生徒がCMで見た「安全な水が飲めずに亡くなる海外の子ども」の問題を提案する
- ・ JRC委員長が「国際協力」をテーマに絞る
- ・ 「国際協力」に向けできることを考えてくることを宿題とする

※教師主導にせず、生徒主体で課題に気づけるよう「待つ」姿勢と、必要に応じた助言が大切

1. 令和元年度 1円玉募金を通じた国際協力

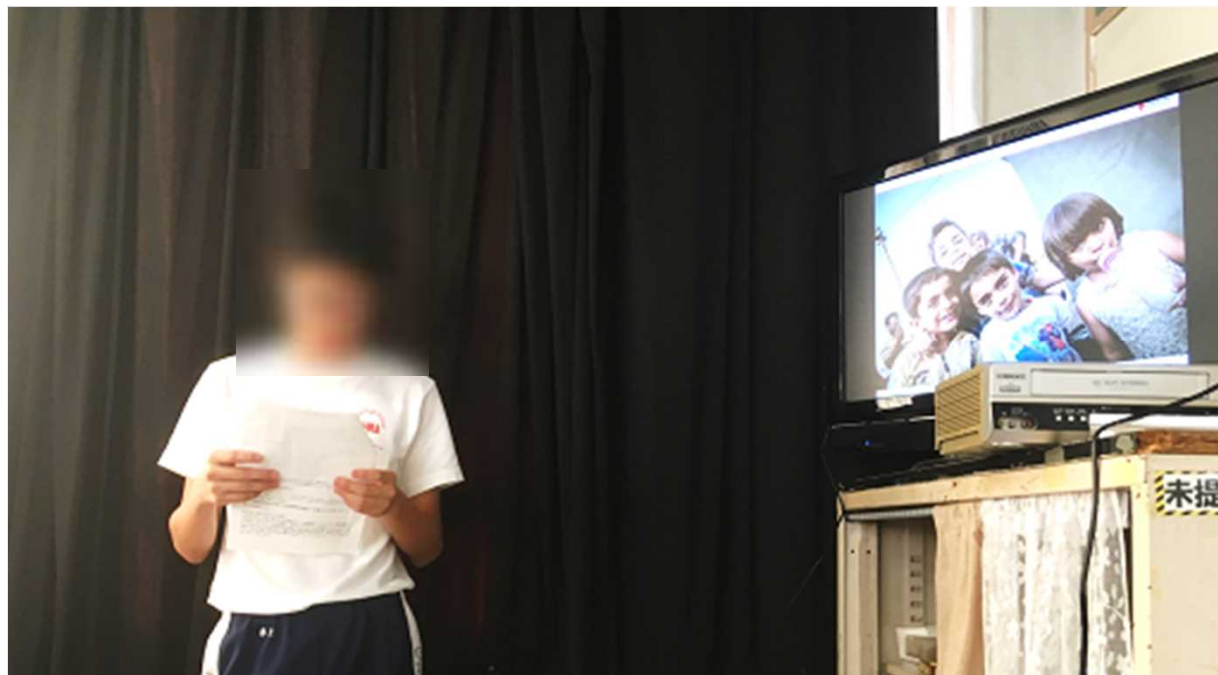
考え（2時間）

- ・ 考えてきたアイデアを共有し「1円玉募金」を活動の中心に決定
- ・ 募金の意義について全生徒の理解を得るために資料を準備する
→ 日本赤十字社パートナーシップ推進部発行のパワーポイント教材を用いる（教材は担当教師が提案）
- ・ パワーポイントに合わせた発表原稿を作成する
- ・ 牛乳パックを材料にして募金箱を作る

※教師は基本、視点（「何を」「何のために」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」など）を与えることと、必要に応じて資料を提示するのみ

1. 令和元年度 1円玉募金を通じた国際協力 実行する（2時間）

- ・ 学級活動や、HRの時間に、各クラスでJRC委員が、1円玉募金の意義について説明する



1. 令和元年度 1円玉募金を通じた国際協力

実行する（2時間）

- ・ 2日間、登校時にJRC委員が玄関等に立ち、募金への協力を投げかける
- ・ 2日目の放課後、生徒が募金額の集計をする（募金は教師が日赤群馬支部に送金）



1. 令和元年度 1 円玉募金を通じた国際協力 実行する (2時間)

- ・ 募金額と協力への感謝の言葉、今後もJRCの理念に沿った活動をしていくことの大切さを、JRC委員長が放送で全校生徒に伝える

ふりかえる (1時間)

- ・ 募金実施までの計画や準備、当日の募金活動について、成果と課題を共有し、後期のJRC委員会へ引き継ぐ
- ・ 担当教師より、生徒の取組を賞賛し、今後もJRCの理念にのっとり自分にできることに取り組むよう促す

2. 令和元年度 台風19号復興支援募金

気づき（1時間）

- ・ 地域や社会の中で気になる課題を、生徒同士で出し合う中で、ある生徒が「台風19号で隣の足利市や佐野市が大きな被害を受けている」ことを問題として提起する
- ・ JRC委員長が「復興支援」をテーマに絞る
- ・ 「復興支援」に向けできることを考えてくることを宿題とする

※報道されている事柄を、自分の身の回りの問題として捉えさせることが大切

2. 令和元年度 台風19号復興支援募金

考え（2時間）

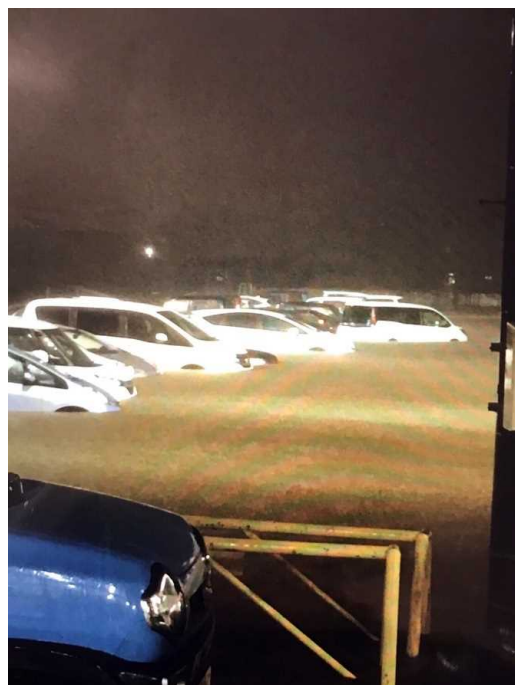
- ・ 前期におこなった「1円玉募金」の反省を生かし、足利市の復興支援を目的とする募金活動を行うことに決定
- ・ 募金の意義について全生徒の理解を得るために資料を準備する
→ 新聞記事やインターネット記事、足利市HPを閲覧し、被害状況について伝える材料を探す
- ・ 提示用写真と発表原稿を作成する

※ 被災した教員もいたため、その先生の証言や被災時の写真も活用することで全生徒が身近な問題として捉えられるようにした

2. 令和元年度 台風19号復興支援募金

実行する（2時間）

- ・学級活動や、HRの時間に、各クラスでJRC委員が、足利市復興支援募金の意義について説明する



←本校教員が被災時に車内から撮影した写真
生徒も、「○○先生も被災したんだ！」
と驚き、より身近に感じられたようです

2. 令和元年度 台風19号復興支援募金

実行する（2時間）

- ・ 2日間、登校時にJRC委員が玄関等に立ち、募金への協力を投げかける
- ・ 2日目の放課後、生徒が募金額の集計をする



2. 令和元年度 台風19号復興支援募金

実行する（2時間）

- ・ **JRC委員長が足利市への応援メッセージを書き、担当教師が募金全額と一緒に足利市役所に届ける**
- ・ **JRC委員長が放送で全校生徒に協力への感謝を伝える**

ふりかえる（1時間）

- ・ **募金実施までの計画や準備、当日の募金活動について、成果と課題を共有し、次年度のJRC委員会へ引き継ぐ**
- ・ **担当教師より、生徒の取組を賞賛し、今後もJRCの理念にのっとり自分にできることに取り組むよう促す**

3. 新型コロナウイルス感染症に関わる 人権侵害予防への取組

※前期は休校期間があり、十分な活動ができなかったため、前後期含めた取組を紹介します

気づき

- ・ 地域や社会の中で気になる課題を、生徒同士で出し合う中で、ある生徒が「新型コロナウイルス感染症に関わる人権侵害」を問題として提起する
- ・ JRC委員長が「**新型コロナウイルス感染症に関わる人権侵害の予防**」をテーマに絞る
- ・ テーマに向け、できることを考えてくることを宿題とする

3. 新型コロナウイルス感染症に関わる 人権侵害予防への取組

考え

- ・ **日本赤十字社HPの「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!
～負のスパイラルを断ち切るために～」の資料をもとに、学習し、全校生徒に伝える準備をする**

3. 新型コロナウイルス感染症に関わる 人権侵害予防への取組

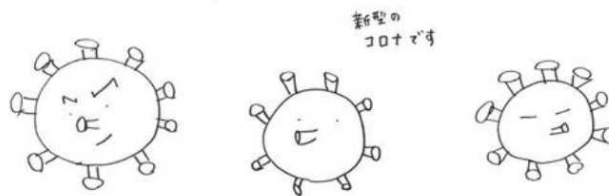
実行する

- ・ 準備した資料を用いて、各クラスでJRC委員が発表をする
- ・ 12月の人権集会で、日本赤十字社HPで公開されている動画を全校生徒で視聴し、JRC委員長がスピーチをする



新型コロナウイルスの
3つの顔を知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～



4. その他の取組（赤い羽根募金）

JRC委員が赤い羽根共同募金を実施

集まった募金を集計後、邑楽町の健康福祉課を通じて、社会福祉協議会へ届けた



5. 成果と課題

○成果

- ・ 生徒の意見や考えをもとに取り組んだことで、より意欲的な活動につながり、達成感も高まった。
- ・ 学年枠を超えた協働で縦の絆が深まった。
- ・ 生徒が自分事として課題を捉えるようになった。
- ・ 小さな取組の積み重ねが大切であることを実感できた。

5. 成果と課題

●課題

- ・ **「気づき」「考え」「実行する」場を全教育活動において設定していくことが大切である。**
- ・ **今、学んでいることが将来の自分の生活はもとより社会に貢献するためにつながっている意識を高めていく。**
- ・ **生徒が主体的に取り組める指導・支援を全教師で共通意識を持って行うことが必要である。**